

10 月 受理報告に係る助言事項一覧（事業者回答）

報告年月日：令和6年10月21日

■事後調査報告書

（1）事業名：「(仮称)神宮外苑地区市街地再開発事業」（工事の施行中その2）

項目：生物・生態系（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、イチョウ並木の保全状況（4列））、自然との触れ合い活動の場、廃棄物
代表する事業者名：三井不動産株式会社

項目	助言事項		回答
生物・生態系 （既存樹木の状況）	1 飯泉	P.14 カ）1行目：植栽基盤における蒸散抑制→「蒸発抑制」あるいは「蒸散抑制」の方が適切だと思いますので、変更をご検討ください。	事後調査報告書に「植栽基盤における蒸散抑制のため」と記載しました箇所については、今後は「植栽基盤における乾燥防止や地温調整のため」などの表現とさせていただきます。
生物・生態系 （既存樹木の状況）	2 横田	「別添表-3(1)事後調査のスケジュール【変更後】」において、「植物相及び植物群落の変化の程度」、「既存樹木の状況」に関する事後調査の計画は、本移植ではなく仮移植を想定したものではないでしょうか。移植計画が変更となり、本移植の割合が増大していることを踏まえると、より早い段階で、「植物相及び植物群落の変化の程度」、「既存樹木の状況」を実施し、情報の更新や長期的なモニタリングサイトを設定する必要があるのではないのでしょうか。	当初は仮移植を想定した事後調査計画としておりましたが、本移植となる樹木については仮移植の樹木と同様に、移植過程や活着、養生の状況や、移植後の活力度調査を実施してまいります。 また、ラグビー場棟Ⅰ期工事の完了後に神宮外苑広場（建国記念文庫）において植物群落調査を実施する予定でございますが、ご助言のように本移植による神宮外苑広場（御観兵榎）等の移植先の遷移の状況についても、本移植後の調査の実施をしてまいります。
生物・生態系 （建国記念文庫の樹木の保全状況）	1 飯泉	P.12 2）、P.74 表1-9、表1-10、表1-11について、2019年春季調査と2023年事後調査の結果を比較する場合、基本的には調査の季節をそろえてください。	2023年のいちょうを除く毎木調査は5月に実施し、2019年調査と比較をしております。また、4列のイチョウ並木及び秩父宮ラグビー場東側の港区道のいちょうについては、季節毎の状態をより詳細に把握するため、2023年5月、7月、10月の3回調査を実施しており、最新の状況

			である 2023 年 10 月の調査結果を 2019 年春季調査と比較いたしました。ご助言頂きましたとおり今後の事後調査においては春季の調査結果との比較を行ってまいります。
生物・生態系 (建国記念文庫の 樹木の保全状況)	2 横田	移植計画が変更となり、本移植の割合が増大していますが、本移植先の環境の妥当性や活着可能性について、本移植計画に則って予測・評価することが必要と考えます。とくに絵画館前広場については、本移植先として広範囲にわたり新たな基盤を創出する形となるため、将来の成長・遷移に対してもそれが十分であることを客観的に示して頂きたいと考えます。	本移植となる樹木については仮移植の樹木と同様に、移植過程や活着、養生の状況の調査や、移植後の活力度調査を実施してまいります。また、移植先の現在の環境を維持するため、一部の樹種を除き、移植先に既に生育している樹種を移植する計画です。これについてはラグビー場棟Ⅰ期工事の完了後に神宮外苑広場（建国記念文庫）において植物群落調査を実施する予定でございますが、ご助言のように本移植による移植先の遷移の状況について、絵画館前広場等の本移植後の調査の実施をしてまいります。
生物・生態系 (建国記念文庫の 樹木の保全状況)	3 横田	本移植先となっている御観兵榎の樹林で、移植樹木により樹木密度が過密になったり、その後の遷移に伴い光・水・土壌環境が悪化することは生じないでしょうか。客観的にお示し頂きたいと思います。	今回、神宮外苑広場（御観兵榎）に移植を予定している位置については、樹木匠とも相談のうえ事前に現地の状況を確認し、植栽地内でも十分に樹木同士の離隔が確保できて日照条件も問題のない場所を選定しております。土壌環境についても、移植樹木の直下を盛土（かさ上げ）して保全してまいります。また、移植樹木の多くは広幅員（約 5.5m）の園路沿いの空間の開いたスペースに植栽するなど、密度としても過密になりにくく、また既存樹木との関係も含め管理しやすいように配慮しています。 別紙 1 を参照ください。
生物・生態系 (建国記念文庫の 樹木の保全状況)	4 横田	移植工事自体における踏圧対策や林床環境・表土の保全策については、具体的な検討は深まっているのでしょうか。客観的にお示し頂きたいと思いま	移植工事に際しては、移植先には関係者以外の立ち入りを制限し、踏圧に配慮する計画です。 具体的な植栽想定位置は別紙 1 をご覧ください。

		す。	また、現地表土を掘削いたしますが、堆肥を加えてそのまま埋戻し、林床環境は保全いたします。
生物・生態系 (建国記念文庫の 樹木の保全状況)	5 横田	変更届の内容に伴い、建国記念文庫前で、根回し等の移植準備をしていた樹木が残置することになったという樹木はあるのでしょうか。ないとは思いますが、そのような場合があれば、対処について教えてください。	移植準備のため、神宮外苑広場（建国記念文庫）内で昨年根回しを行っていた樹木のうち、今回のラグビー場棟の壁面位置の検討により存置で保全できる樹木は9本です（変更届 p. 43 参照）。 これらの樹木に対する根回しの影響については樹木医にも確認の上、存置に問題がないことを確認しておりますが、引き続き、根鉢上に稲藁にてマルチング、養生を行うとともに、灌水や除草、病害防除対策を適宜実施する計画です。また、一部の樹木については倒木対策として仮支柱の設置を実施しております。 該当樹木の存置にあたっては、樹木医とも相談のうえ、今後存置に向けて畔シートの撤去等を実施することで適切に保全する計画としております。 また、ラグビー場棟Ⅰ期工事の完了後5年間、神宮外苑広場（建国記念文庫）において既存樹木の活力度調査を行う計画です。
生物・生態系 (イチョウ並木の 保全状況)	1 飯泉	P. 12 2)、P. 16 (3)、P. 74 表 1-9、表 1-10、表 1-11 について、2019 年春季調査と 2023 年事後調査の結果を比較する場合、基本的には調査の季節をそろえてください。	4 列イチョウ並木及び秩父宮ラグビー場東側の港区道いちょうについては、季節毎の状態をより詳細に把握するため 2023 年 5 月、7 月、10 月の 3 回、事後調査を実施しているため、最新の状況である 2023 年 10 月の調査結果を 2019 年春季調査と比較いたしました。ご助言頂きましたとおり、今後の事後調査においては春季の調査結果との比較を行ってまいります。
生物・生態系 (イチョウ並木の 保全状況)	2 飯泉	いちょうの活力度を調査する際は、できるだけ写真を撮影して残すことなどをご検討くださ	いちょうの活力度を調査した際の写真は全て保管してありますが、本報告書への掲載としては分量の関係

		い。	で、活力度CやDとなった5本のいちょうについて資料編 p. 295～299 に写真等の詳細を掲載させて頂きました。引き続き活力度と合わせて写真等の記録を行っていく予定です。
生物・生態系 (イチョウ並木の 保全状況)	3 飯泉	P. 19、2023 年 4 月に 8 本のいちょうにデンドロメーターを設置されていますが、装着したいちょうの樹木番号と、今後のデータの活用法についてご説明ください。	樹木医の助言を受け、デンドロメーターについては樹木番号 9、29、34、36、40、43、45、48 番に設置いたしました。樹勢の低下したいちょうと健全ないちょうをそれぞれデンドロメーターの設置をすることにより、幹周の経年的な変化量を確認していく予定です。設置のデンドロメーターは幹周の変化による生長率を年単位のみならず月単位、 μm 単位でも確認できる機材です。目視による診断だけでなく植物の生長率を用いた客観的な評価手法を提案するものであり、毎年 の測定結果を比較することにより、樹勢回復措置の効果検証を実施してまいります。
生物・生態系 (イチョウ並木の 保全状況)	4 飯泉	P. 69 仮囲いは縁石から何 m の距離に設置予定か記載してください。	仮囲い位置の詳細については原則縁石から 17m より西側の位置とする計画ですが、今後の施工計画において、保全するいちょうの根系に配慮した位置を検討します。
生物・生態系 (イチョウ並木の 保全状況)	5 飯泉	4 列イチョウについて、コンクリートからの溶出成分や土壌改良剤の影響などについてもご配慮をお願いします。	4 列イチョウ並木について、今回の事後調査報告では根系調査の結果を踏まえ野球場棟をセットバックする方針をお示しいたしました。このセットバック方針を踏まえ、野球場棟については今後設計を深度化していく計画であり、ご助言の懸念事項についても合わせて検討していく計画です。コンクリートや土壌改良剤については使用箇所や使用の有無を含めて未定ですが、いちょうに著しい影響を与えないよう、野球場棟の施工計画の詳細を策定してまいります。

生物・生態系 (イチョウ並木の 保全状況)	6 飯泉	4 列イチョウおよび建国記念文庫の樹林地などにおいて、樹木の生育環境の基礎データについて適宜モニタリングをご検討ください。	土壌の粒度分布など物理・化学性については経年的に大きな変化がないと考えられますが、4 列イチョウ並木においては着工前及び野球場棟の工事の完了後に、神宮外苑広場（建国記念文庫）においては着工前とラグビー場棟Ⅰ期工事の完了後において調査を行うこととしております。 一方で、経時的に変化する土壌水分量については、昨年7月の審議会でご助言頂きましたとおり、4 列イチョウ並木の土壌水分について、定期的にモニタリングを実施しております。 土壌水分のモニタリング結果については、今後の事後調査報告書において報告いたします
生物・生態系 (イチョウ並木の 保全状況)	7 宮越	土壌水分量のモニタリングの実施は良い取り組みと考えます。これらは、活力度調査などと同様に、いちょうに関するモニタリングの一つと言えますので、その実施状況については、該当する環境保全の措置の実施状況に盛り込んで報告されるべきと思いました。具体的には、土壌水分量のモニタリングについても、表 1-7 (6) (p67) の「工事の施工中および完了後の～健全に育成する」の実施状況の一つとして報告することを次回以降検討して下さい。	昨年7月の審議会でご助言頂きましたとおり、4 列イチョウ並木の土壌水分について、定期的にモニタリングを実施しております。 土壌水分のモニタリング結果については、今後の事後調査報告書において報告いたします。
生物・生態系 (イチョウ並木の 保全状況)	8 横田	野球場棟地下躯体によるイチョウ並木の根系への直接・間接影響が不明瞭と考えます。根系調査の結果、斜出根の範囲について把握はできたのでしょうか。なお、根系調査の地点5では、縁石より 22m の地点でも 4.9mm～8.7mm の根の分布がありますが、根系がそこまで生長で	工事に伴う影響の最小限化といちょうを適正に保全するため、歩道縁石より 17m ラインで折り曲げ可能な根があれば伸長方向を変え保存し、直径 30mm 以上の根は環状剥皮を行い、その先 1.3m を工事中の施工スペースや根系伸長域として設けております（事後調査報告書 p. 79～81 参照）。そのため、17m まで根系は全

		きることを鑑みると、約18.3mの地点に入る地下躯体の影響がないとは言えないと思います。地下躯体による直接・間接影響をより具体的に予測・評価し、安全側での検討が必要と考えます。	て保全される計画となっております。いちょう本体から出た斜出根は離れるにつれて深さ0.7～1m付近を横に伸びており17m地点では縦43mm、横42mm、18m地点では縦19mm、横21mmとなっております。22m地点では縦8.7mm、横4.9mmです。17mラインで30mm以上の根を環状剥皮することにより地下躯体の影響を防ぐ計画としています。 また、新野球場棟の施工の約1年前に、約17m地点で原則手掘りにより全てのいちょうの根の伸長状況の確認を行い、上記処置を行う予定です。
生物・生態系 (いちょう並木の 保全状況)	9 高橋	今回報告された内容は、昨年の活力度調査結果であります。今年の一ちょう並木の活力度調査結果は、どのような結果となっているのでしょうか。今年には特に暑かったので、いちょうが弱っていないかが気になります。 今後の事後調査報告書において、報告されることになると思いますが、可能な範囲でお示しください。	4列いちょう並木の2024年の活力度調査は5月と7月に実施済みであり、5月は活力度Aが74本、活力度Bが53本、活力度Cが1本（樹木番号西40）となっております。7月は活力度Aが74本、活力度Bが50本、活力度Cが4本（樹木番号西29、西34、西36、西40）となっております。なお、活力度Dとなったいちょうはございませんでした。 昨年7月時点で活力度C（悪化のかなり進んでいるもの）が3本、活力度D（顕著に悪化の進んでいるもの）が2本、計5本あったのに対し、今年7月では活力度Cが4本となっております。これらのいちょうの活力度についてはやや改善が見られます。
自然との触れ 合い活動の場	1 横田	移植計画が変更となり、本移植の割合が増大しています。それに伴う景観や自然との触れ合い活動への影響の予測・評価の見直しが必要ではないかと考えます。樹木密度の増加や樹種構成の変化による当初の樹林景観の変化、林内環境の変化に伴う自然との触れ合い活動の変化に	本移植先のうち神宮外苑広場（建国記念文庫）や神宮外苑広場（御観兵榎）については自然との触れ合い活動に支障がないよう、園路上に移植を行わない計画としております。 また、ご助言のとおり、樹種構成の変化等によりこれらの場所での自然との触れ合い活動が変化することが考えられますので、事後調査におい

		についても、予測・評価する必要があるのではないのでしょうか。	て利用実態を調査していく計画です。 絵画館前や絵画館周りについては現況で不特定多数の利用がみられないことから事前調査は行っておりませんが、供用後の利用状況を踏まえ、利用実態調査を行うことを検討いたします。
--	--	---------------------------------------	--

■変更届

(1) 事業名：(仮称)神宮外苑地区市街地再開発事業

変更内容：事業計画

代表する事業者名：三井不動産株式会社

項目	助言事項		回答
生物・生態系	1 横田	ラグビー場棟南側はインフラ管が埋設されているとのことですが、どのような根拠でラグビー場棟の平面的配置を決められたのか、(南側の植栽地よりも北側の建国記念文庫の既存樹林を優先する配置はなぜできないのか、) 不明瞭ですので、具体的にさせて頂きたいです。	ラグビー場棟の建設は、競技開催の継続性に鑑み、神宮球場を供用したまま、Ⅰ期敷地で競技に支障が出ないように、ラグビー場としての機能を充足して建設する計画です(変更届 p. 24 記載)。従って、ラグビー場棟南側に埋設されているインフラ管は、神宮球場の供用には必要な設備であることから、Ⅰ期工事と共に撤去できないため、Ⅰ期工事は当インフラ管に支障がない範囲にて行わざるを得ず、これを踏まえてラグビー場棟の平面的配置を計画しております。なお、南側の植栽地はⅡ期工事にて整備する計画としております。
生物・生態系	2 横田	事後調査報告その2 (p. 34～) では、移植計画が変更となり、本移植の割合が増大していますので、変更届において移植計画の変更についても触れ、それとの関係を明らかにさせて頂きたいです。本移植先の環境の調査・予測・評価、本移植先での活着可能性を踏まえた移植の個別判断の評価についても、見直しをする必要があるのではないのでしょうか。	移植計画については、事後調査計画書において事後調査報告書で報告することとしていたため、変更内容についても事後調査報告書(工事の施行中その2)に記載させて頂きました。 移植計画を変更したことにより、評価書の予測における存置、移植、伐採本数に変更が生じるため、変更届 p. 44、45、48 においてその本数を記載いたしました。 また、移植先の環境については、主に移植先に既に生育している樹種を移植することにより、移植先の現在の環境を維持することとしています。また、本移植による移植先の遷移の状況について、神宮外苑広場(建国記念文庫)においてラグビー場棟Ⅰ期工事の完了後に実施することとしていた植物群落調査を、本移植後に実施してまいります。また、

			絵画館前広場など計画地外の本移植先についても、植物群落調査を行い遷移の状況を確認することを検討いたします。 移植後の活着可能性について、移植対象樹木に対しては根回しを適切に行なっており、2023年の毎木調査結果においても移植可能であると確認された樹木を移植する計画です。また移植先についてもこれまでの図書に記載している植栽基盤の整備や、移植後の管理も含め、活着に対しては最大限の対策を行った上で、移植木については移植後の活力度調査も実施してまいります。
日影	1 飯泉	ラグビー場棟の配置および仕様の変更により日影範囲は縮小しますが、建国記念文庫は冬至日を中心に長時間の日影となることから、樹木への十分なご配慮をお願いします。	日影の影響については、植物の生育状況や植生環境の変化に合わせた順応的管理を行うことで、長いスパンで樹木の維持を図ります。 ラグビー場棟による神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木については、ラグビー場棟Ⅰ期工事の完了後5年間、既存樹木の活力度調査を実施し、その状況に応じた順応的管理を継続し、将来にわたって緑地環境の保全を図る計画です。
景観	1 宗方	ラグビー場の圧迫感を一層低減させるべく、ファサードデザイン（形状や素材、壁面緑化等）と色彩を丁寧にご検討ください。	都市計画上設計可能な最高高さよりも低く、更に従前案55mと比べて約48mに抑える計画とします。また、隣接の国立競技場と絵画館と軒高を同程度とし、さらに上部を傾斜屋根とし全体の圧迫感を抑制します。 建物の北東角を後退させ、更に北側を階段状とするとともに、東側及び西側上部の壁面を建物側に傾斜させることで、圧迫感に配慮した建物形状とします。 ラグビー場低層部の壁面を凹凸の形状で分節することや、ラグビー場の周りに存置もしくは移植する既存樹木や新植する樹木を配し、緑に囲ま

			れたラグビー場とすることで、目線レベルの圧迫感に配慮します。 低層部のエントランスに建物内外を一体的につなげるガラスを使用することで、大壁にならないよう目線レベルの圧迫感に配慮した計画とします。また、エントランスゲートには木を使用した底を計画し、隣接国立競技場と協調したデザインとします。 「東京都景観色彩ガイドライン」及び「新宿区景観形成ガイドライン」に適合した色彩計画とします。エントランス周辺は樹木と協調したグリーンカラーをアクセントカラーとして導入します。 具体的な検討状況については別紙2をご確認いただければと思います。が、今後関係各所との協議を実施予定のため、別紙2の内容から変更となる可能性があることはご了承ください。
景観	2 横田	ラグビー場高さについて、国立競技場の軒高と同等とのことですが、周囲のスペースが非常に限定的で、樹木にとってはより厳しい状況にあります。特に東側では樹木と歩行者での空間の取り合いも生じています。伐採樹木の本数減だけを目的とするのではなく、消費する空間や生態系への影響の評価に基づく配慮が必要です。ラグビー場棟の配置・構造の変更が、どのように空間や生態系のつながりへの影響を改善しているのかを具体的に示して頂きたいです。	空間への影響については、ラグビー場棟の高さを低くすることや、建物の東側及び西側の上部の壁面を建物側に傾斜させることで、日影の範囲の低減や圧迫感に配慮するとともに、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の生育環境を評価書時よりも良化する計画としています。 ラグビー場棟敷地周囲のうち、北側部分については幅員8mの歩行者のみが利用する緑道を整備する計画であり、国立競技場の8m緑道と融合するものとして整備します。また、東側部分については、環境影響評価書時と同様に幅員6mの緑道を整備する計画であり、ラグビー場棟の外形線は東側に膨らんでおりません。また、変更届 p. 43 の図に示すとおり、樹木の一部を存置し、更に周辺樹木とも呼応する単調とならない新植樹木の配置とすることで、生態系のつなが

			りに配慮した神宮外苑地区を南北に貫くみどりの散策路の一部として計画します。
景観	3 横田	工事中の自然との触れ合い活動について、特にラグビー場棟東側では十分な歩行空間の幅員確保ができない状況にあり、歩行者が直接的に大気汚染物質や騒音等の影響を受けやすい環境になるのではないのでしょうか。 「予測条件である施工計画及び緑地の保全状況に変更はないため、予測の見直しは行わない」とありますが、緩衝帯を十分に設けられないことによる影響が変更届により確定的になるのであれば、追加的な保全措置について検討する必要があるのではないのでしょうか。	計画地内の東側部分については、環境影響評価書時と同様に幅員 6m の緑道を整備する計画であり、ラグビー場棟の外形線は東側に膨らんでおりません。また、計画地東側の歩道については工事中においても歩行者動線を確保する計画としておりますので、自然との触れ合い活動の場への利用経路については著しい影響を及ぼさないものと考えております。これについては、工事用車両の出入口に交通整理員を配置することにより、歩道を利用する一般の歩行者の円滑な通行を確保するとともに、工事により通行できなくなる場合は迂回路を設置し、歩行者の通行に支障がないよう配慮する計画です。 ラグビー場棟については工事工程が変更となるものの、仮囲いの位置やピーク時の建設機械台数、工事用車両台数に変更はないため、大気汚染及び騒音・振動の予測結果に変更はなく、環境基準等を満足すると予測しています。しかしながら、ご助言のとおり歩行者への影響に配慮し、建設機械の不必要なアイドリングの防止や工事用車両の走行ルート限定、安全走行等により、大気汚染や騒音・振動の影響の低減に努めてまいります。